

# 帯広市食育推進計画



平成19年9月

帯 広 市

目 次

I 計画の策定にあたって

- 1. 計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3. 計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 4. 計画の推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

II 食をめぐる現状と課題

- 1. 食生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2. 栄養バランス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3. 食を大切にする意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 4. 食文化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 5. 食の安全・安心・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

III 目標

- 1. 食育の基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 2. 食育推進の目標数値・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

IV 食育推進のための施策展開

- 1. 家庭における食育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 2. 保育所等における食育の推進・・・・・・・・・・・・ 19
- 3. 学校における食育の推進・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 4. 地域における食育の推進・・・・・・・・・・・・・・ 22
- 5. 生産者と消費者の交流をとおした食育の推進・・・・ 23

《資料》

- I データで見る帯広市の食をめぐる現状・・・・・・・・ 25
  - 1. 主なアンケート結果の分析・・・・・・・・・・・・ 25
  - 2. 食育アンケート集計結果・・・・・・・・・・・・・・ 27

## はじめに



「食」は生きるための基本であり、健康で豊かな毎日を送るために欠かせないものです。

しかし近年、経済成長とともに飽食の時代となり、食への感謝の心が失われているほか、食生活の乱れや栄養の偏りからくる生活習慣病の増加や低年齢化、BSEの発生や食品の偽装表示など様々な問題が生じており、食の安全・安心に対する市民の関心も高まってきております。

このような中、国は、国民一人ひとりが食に関する様々な知識や食を選択する判断力を身に付ける「食育」の推進を重要課題と位置づけ、平成17年6月、食育基本法を制定しました。

これを受け、帯広市においても、市民一人ひとりが生涯にわたって健康で豊かな生活を送ることができるよう、総合的・計画的に食育を進めるため「帯広市食育推進計画」を策定しました。

この計画は、家庭における食育を基本として、行政、学校、地域などが連携しながら、それぞれの立場から、社会全体で食育に取り組むための指針となるものです。

帯広市は日本の食料基地であり、農家の皆さんが心を込めて育てた、新鮮で安全な農畜産物の宝庫です。この帯広ならではの地域特性を活かした食育を、計画に基づき推進して参りたいと考えております。

「食育」とは、健全な食生活を通じて、生きる力を育むことです。

子どもから高齢者まで、皆さんが健康で豊かな毎日をおくるため、日常生活の中で少しずつ「食」について考える時間を増やしていただきたいと思っております。

終わりに、計画の策定にあたりまして、貴重なご意見をお寄せいただきました関係機関・団体をはじめ、市民の皆様にご心からお礼を申し上げますとともに、今後とも計画の推進にあたりましてなご一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年9月

帯広市長 砂川 敏文

# I 計画の策定にあたって

## 1. 計画策定の趣旨

わたしたちが生きるために、食は欠かすことができません。

食べることは、身体の健康を維持するだけでなく、心の形成にも大きな役割を果たすといわれています。

食べることは、わたしたちの大いなる喜びのひとつです。

しかしながら近年、急速な経済発展や核家族化、ライフスタイルの多様化により、食をめぐる環境は大きく変化しています。

家族全員がそろって食卓を囲む機会が減り、1人で食事をする「孤食」が増えているほか、家族がそろっていてもそれぞれ異なったものを食べる「個食」や、朝食の欠食など、家庭内での食生活の乱れが大きな問題となっています。

このほか、外食や、弁当・惣菜など調理せずに食べられる「中食」<sup>なかしょく</sup>の利用の増加により、家庭での調理が減り、これまで家庭ごとに伝えられてきた食習慣や食文化が失われつつあります。また、栄養の偏りからくる肥満や痩せ、生活習慣病の増加や低年齢化など、健康面での問題も顕在化しています。

さらには牛海綿状脳症（BSE）の発生や食品の偽装表示、無登録農薬の使用問題などにより、消費者の食の安全・安心への関心が高まり、食の安全性に対する正しい知識を共有することが求められています。

このような状況の中、国は、国民一人ひとりが健全な食生活を実践し豊かな人間性を培うとともに、生涯にわたって健康な生活を送るために、食に関する様々な知識や食を選択する判断力を身につける「食育」の推進を重要課題と位置づけ、平成17年6月、「食育基本法」を制定しました。

これを受け、帯広市においても、国内有数の食料供給基地として安全・安心で良質な農畜産物を生産し、消費者にとって生産現場が身近で、新鮮な食材に恵まれた環境にあるという地域特性を生かしながら、

市民一人ひとりが健康で豊かな生活を実践するために、総合的に「食育」を推進する帯広市食育推進計画を策定するものです。

## 食育とは??

食育基本法の中では「食育」を次のように位置づけています。

- ① 生きるうえでの基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの



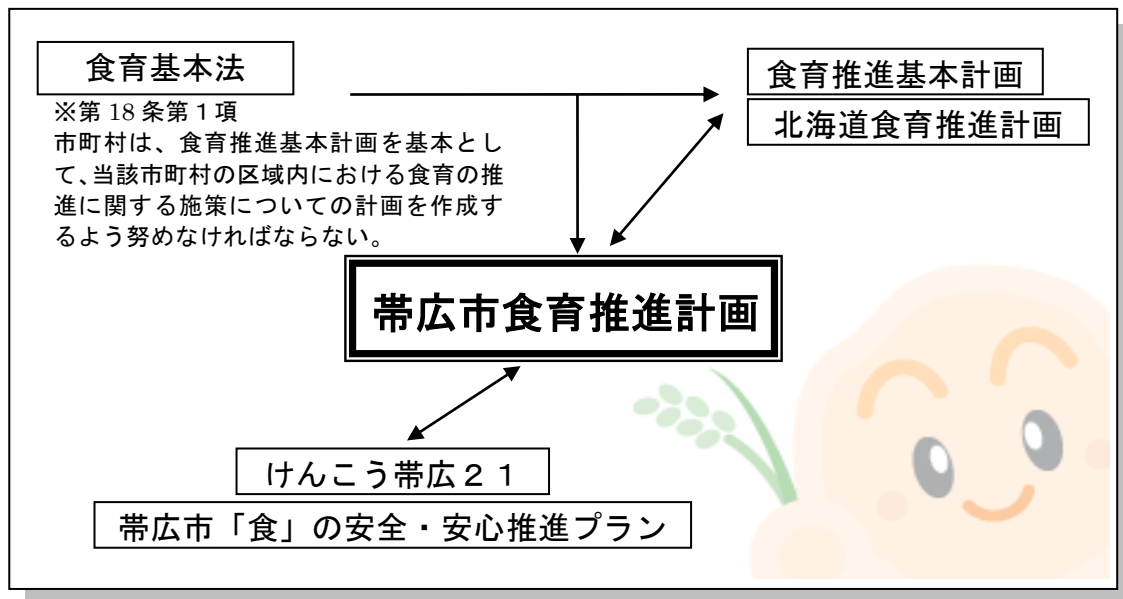
- ② 様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること



## 2. 計画の位置づけ

帯広市食育推進計画は、食育基本法第18条の規定に基づく市町村食育推進計画と位置づけ、食育を具体的に推進するための総合的な指針とします。

また、計画の実施にあたっては国の食育推進基本計画や北海道食育推進計画との整合を図るとともに、「けんこう帯広21」や「帯広市「食」の安全・安心推進プラン」などの関連計画と連携して進めます。



## 3. 計画の期間

計画の期間は平成19年度から23年度までの5年間とします。

社会経済情勢などの変化などによって、計画の変更が必要になった場合には、随時見直すこととします。

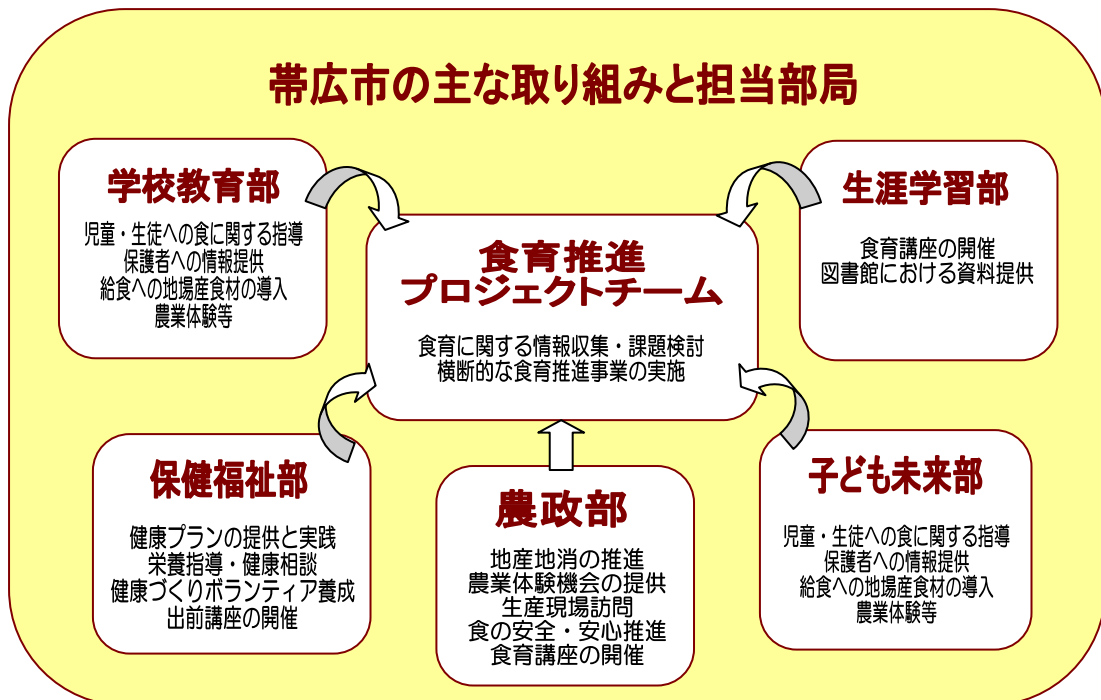
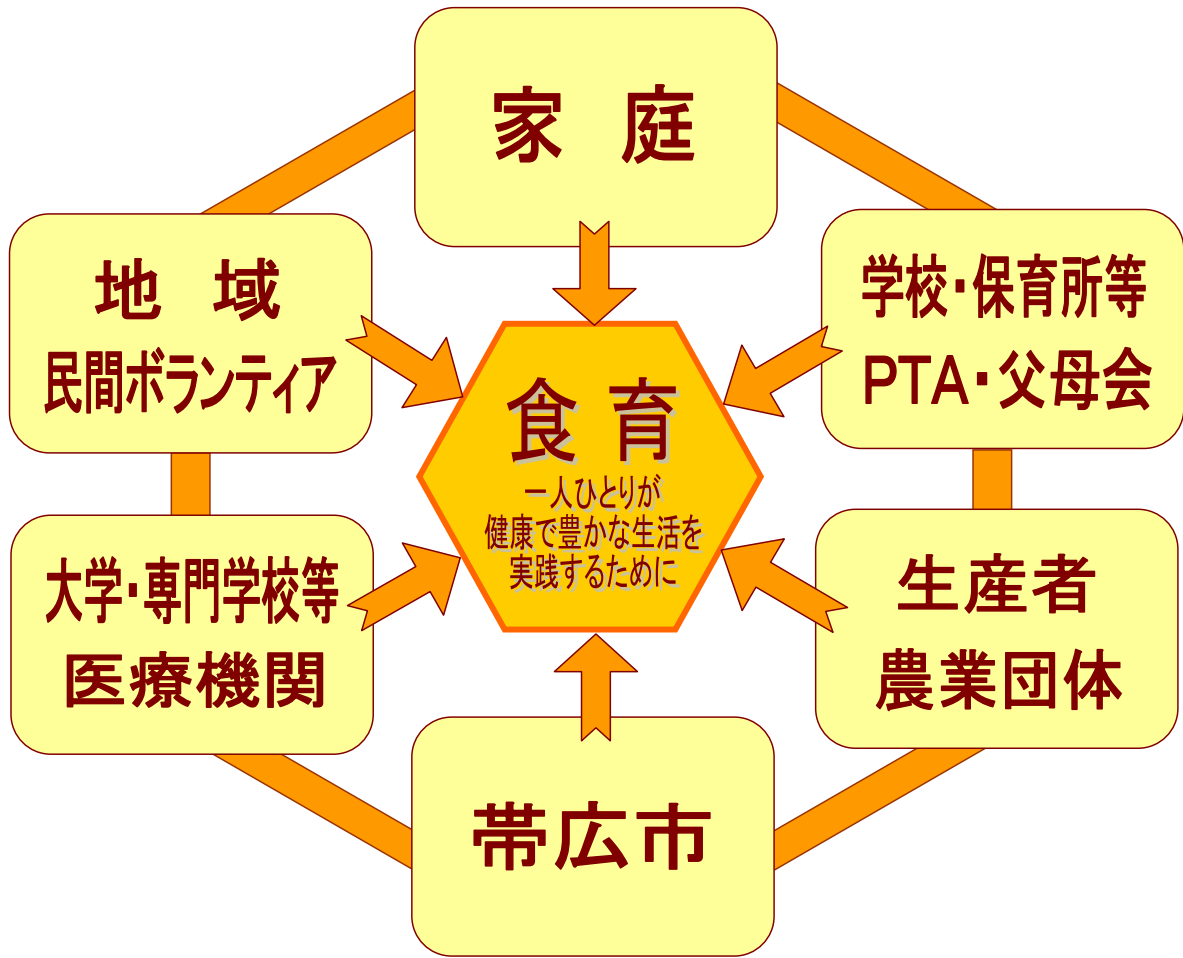
## 4. 計画の推進体制

帯広市ではこれまで、家庭、学校、保育所、地域などでそれぞれ独自に食育に取り組んできましたが、これらの取り組みを連携させ、総合的に「食育」を推進する必要があります。

このため市では、関係各課が共通認識を持ち横断的な推進体制を整備するとともに、関係団体と連携をとりながら計画を進めていきます。

また、施策の実施状況や計画の進捗状況などの進行管理を行います。

《食育推進体制図》



## Ⅱ 食をめぐる現状と課題

### 1. 食生活

本来食事は楽しいものであり、大事なコミュニケーションの場です。

しかし近年、急速な経済発展やライフスタイルの多様化などにより、家族全員が同じリズムで生活することが困難となり、家族全員がそろって食事をする機会が減少し、「孤食」や「個食」などの問題も生じています。

また、一日の活力の源となり、食事の中でもっとも大切な朝食を食べない人が増えています。帯広市の児童・生徒の朝食欠食率は、朝食を食べない日が週に1日でもあるという人を含めると10%を超えています。朝食を食べないと、午前中の授業や仕事に集中できない、活動的に過ごせないなどの影響が出るといわれています。また欠食することで残り2食を多く食べがちになるため、肥満を誘発することにもなります。

朝食の欠食の大きな要因の一つに、夜遅くまで起きているため、朝なかなか起きられず、時間がない、食欲がわからないという現状があります。特に、乳幼児期は親の生活リズムの影響を受けやすく、夜型の子どもが増えているといわれています。

また、テレビやビデオ、ゲームなどで遊ぶ時間が増え、外遊びなど運動をする時間が減っており、食事の時間になってもなかなかお腹がすかないという現状もあります。

生活リズムの見直しを進めるとともに、朝食の欠食が心身に与える影響を理解し、朝食の大切さに対する知識を身につけることが重要です。

### 2. 栄養バランス

食事の第一の目的は、健康を維持し生活をするための栄養をとることです。そこで重要になってくるのが栄養バランスです。

しかし現在は、外食産業や中食産業の発展などにより食の外部化が進み、いつでもどこでも好きなものが簡単に食べられるようになった



ため、偏食が増加し、栄養バランスの偏りにつながっています。とりわけ、バランスの良い栄養を得ることのできる野菜と牛乳・乳製品の摂取量の不足がみられます。

栄養バランスの偏りは、肥満や生活習慣病を誘発することになり、健康へ深刻な影響をもたらします。

また、若い女性に多く見られる痩身(ダイエット)指向も問題です。さまざまな情報に振り回され、食事を食べなかったり偏った食事をしたりするなどの無理なダイエットは、心身のバランスを崩します。

健康な日々を送るためには、栄養バランスの取れた食事に関する知識を得るとともに、自分の適正な体重を知ることが大切です。

### 3. 食を大切にす意識

社会経済状況が急激に変化し、忙しい生活を送る中、食に対しても利便性や効率性を追求するあまり、どうしても食の大切さを忘れがちになります。

我が国の食料自給率はカロリーベースで40%と先進国中最低レベルにあり、自国の農地の2.5倍に相当する農作物の作付を海外に依存している計算になります。

一方で大量の食べ残しや食品の廃棄が行われており、環境への負荷や資源の浪費など、大きな社会問題となっています。

食べ物は、もともと自然の中の生命から得られたものであることを今一度認識し、そして、それを育てている農業への理解を深め、食への感謝の気持ちを培うことが必要です。

### 4. 食文化

全国各地に、古くから受け継がれてきた食文化があります。しかしながら、食の外部化や核家族化による食文化の担い手の減少のため、地域の特色ある料理が食卓に並ぶことは少なくなり、伝統ある食文化が失われつつあります。

帯広市においても、地元で生産された農産物を活かした料理やそれぞれの家庭で受け継がれてきた料理・食文化があります。

この食文化を次世代に継承することは、私たちの歴史の一端を引き継ぐとともに、新たな食文化の基礎となる大切なものです。

また、様々な食生活を選択することができるようになったため、米を主食とした日本型食生活が減少している傾向にあります。

魚、野菜などの多彩な副食からなる、栄養バランスの優れた日本型食生活の良さを今一度見直すことが必要です。

## 5. 食の安全・安心

近年の牛海綿状脳症（BSE）の発生や食品の偽装表示、無登録農薬の使用等、食品をめぐる多くの事件・事故の発生や、食品添加物、残留農薬による健康上の懸念など、食の安全・安心に対する関心が高まっています。

帯広市では、帯広市「食」の安全安心推進プランを平成16年に策定し、消費者・生産者・行政などの関係者が協働しながら、農畜産物をはじめとする食の安全・安心の確保対策に取り組んでいます。引き続き、生産者をはじめ食品を供給する立場にあるものは、消費者の信頼を得るために、食品の安全性の確保に努める必要があります。

また、消費者においても、食の安全に関する正しい知識を身につけ、自らの判断で食を選択することが求められます。

### Ⅲ 目標

#### 1. 食育の基本目標

帯広市における食をめぐる現状と課題を踏まえ、市民一人ひとりが生涯にわたって健康な生活を送れるよう、食育を推進するため、基本目標を次のとおり定めます。

#### ① 規則正しい食習慣と栄養バランスの 取れた食事を実践する

1日3食をなるべく決まった時間に食べることは、毎日を元気に暮らす基本であり、栄養バランスの崩れの防止にもつながります。特に1日のエネルギーの源となる朝食をきちんととることが大切です。

また、食の外部化や欧米化が進み、食の選択肢が多様化している中、自らが栄養バランスを考え、食を選択し、自ら作ることが求められます。

生活リズムを整え、規則正しい食習慣を身につけるとともに、国や北海道の「食事バランスガイド」を活用し、栄養バランスのとれた食生活の実践を目指します。



## ② 楽しく食べる習慣を身につける

食事は、空腹を満たしたり栄養をとったりすることだけでなく、家族や仲間との大事なコミュニケーションの場でもあります。

一緒に料理をしたり、会話をしながら笑顔で楽しく食事をしたりすることにより、豊かな心を育むとともに、食への興味・関心を高めることに繋がり、効果的に食育を進めていくことができます。

おいしいと思って食べるのとそうで無いのとでは心身への影響も違ってきます。だれかと一緒に料理する、食べる、会話するなど、食を通じたコミュニケーションにより、食の楽しさを実感することを目指します。

## ③ 食への感謝の心を育む

経済成長に伴い、飽食の時代といわれる今、食べられることが当たり前と思うようになり、食べ物を大切にすることが忘れがちになっています。

食べ物が私たちの口に入るまでには、自然の恵みや生産者をはじめとする食にかかわる多くの人の苦労や努力があることを理解し、「いただきます」「ごちそうさま」の心、食への感謝の心を育み、食べ物を無駄にしないことや食べ残しをしない習慣を身につけることを目指します。

## ④ 農業や伝統的な食文化への理解を深める

食への感謝の気持ちを深め、食の安全に対する意識を高めるためには、食べ物を生み出す農業への理解は重要なことです。

様々な体験活動や情報提供をとおして、農業への正しい理解を深めます。

また、伝統的な行事に結びつく料理や、地元の食材を利用した料理、それぞれの家庭で受け継がれてきた料理など、地域で培われてきた食文化やその歴史への理解を深め、次世代へ継承していくことを目指します。

## ⑤ 地場産食材を使った豊かな食生活を実践する

日本有数の食料供給基地である帯広には、多彩で豊富な食材があります。

近年は日本全国を始め、海外からの輸入も増え、一年中さまざまな食材が手に入るようになりましたが、その土地で採れたものを採れた旬の時期に食べることは、心身の健康や環境のために望ましいといわれています。

また、地域の農業がこれからも発展するためには、市民に農業を知ってもらい、応援してもらわなければなりません。

地元の食材を家庭の食卓や給食などに積極的に導入し、地元でとれたものを地元で消費する「地産地消」を目指します。

## 2. 食育推進の目標数値

食育の推進、基本目標の達成に関する状況を客観的な指標により把握するため、定量的な目標値を設定します。

### (1) 朝食を欠食する市民の割合の減少

朝食の欠食は、食生活の中でも大きな問題のひとつです。1日3食きちんと食べて、健康的な食生活をするには、まず一番大切な朝食を欠かさないことが肝心です。

子どもと、子どもにとって一番身近で手本となるべき保護者の欠食率の減少を目指します。

#### 朝食を欠食する人の割合

小学生	現状	2.9%	⇒	目標	0%
中学生	現状	4.9%	⇒	目標	0%
保護者	現状	14.9%	⇒	目標	10%以下

※ 現状は、帯広市が実施（平成18年度）した食育に関するアンケート「朝食をほとんど食べない、あるいは週に3~4日食べないことがある人の割合」の調査結果

#### 国の計画(※1)では、

▼ほとんど朝食を食べない小学校5年生の割合  
12年度 22年度  
4% ⇒ 0%

▼調査日において「菓子・果物などのみ」「錠剤などのみ」「何も食べない」に該当したもの

15年度 22年度  
20代(男性) 30% ⇒ 15%以下  
30代(男性) 23% ⇒ 15%以下

(※1) 国の計画：食育推進基本計画（平成18年3月）

## (2) 野菜と牛乳・乳製品の摂取量の増加

豊富なビタミンやカルシウムなどを含んだ野菜と牛乳は、栄養バランスを整える大切な食品です。

健康を維持するための野菜や牛乳・乳製品の必要性を理解し、摂取量の増加を目指します。

### 野菜を1日3回食べる人の割合

児童生徒 現状 21.6% ⇒ 目標 45%以上  
保護者 現状 22.1% ⇒ 目標 45%以上

※現状は、帯広市が実施した食育に関するアンケート(平成18年度)の調査結果

北海道の計画(※2)では、

16年度 21年度  
成人1日当り野菜の摂取量 299.3g ⇒ 350g以上

### 牛乳・乳製品を週5日以上摂る人の割合

児童生徒 現状 67.9% ⇒ 目標 95%以上  
保護者 現状 39.5% ⇒ 目標 55%以上

※現状は、帯広市が実施した食育に関するアンケート(平成18年度)の調査結果

北海道の計画では、

15年度 21年度  
牛乳1人1日当たり消費量 79ml ⇒ 110ml

(※2) 北海道の計画：北海道食育推進行動計画(平成17年12月)

### 《取り組みの事例》



帯広市では、生産者と消費者の相互理解を深めながら牛乳・乳製品の消費拡大を図る取り組みを行なっています。

市内の小中学生の皆さんから酪農家を応援メッセージや牛の乳を拭くための白いタオルを募集したり、牛の絵本(文は市内の酪農家廣瀬文彦さんに書いてもらいました。)を作成し、幼稚園・保育所へ配布しています。

### (3) 自身の適正体重を知っている市民の増加

自分の適正体重を知ることは、肥満や痩せの防止につながります。一人ひとりに適した食生活を実践するため、適正体重を知っている市民の増加を目指します。

#### 適正体重を知っている人の割合

現状 86.1% ⇒ 目標 90%以上

※現状は、帯広市が実施した食育に関するアンケート(平成18年度)の調査結果

国の計画では、

メタボリックシンドロームを認知している国民の割合を22年度までに80%以上とする。

※メタボリックシンドロームについての説明→18ページへ

### (4) 農業体験をしたことのある市民の増加

農畜産物の生産に関する体験活動は、食に関わる人々への理解を深め、食への感謝の心を育みます。また、地域の農業がこれからも発展するためには、市民に農業を知ってもらい、応援してもらわなければなりません。

生産現場が身近であるという帯広の特性を活かし、様々な農業体験の機会を提供し、農業を体験する市民の増加を目指します。

#### 農業(畑作・酪農)体験をしたことのある人の割合

児童・生徒 現状 79.2% ⇒ 目標 90%以上

大人(保護者) 現状 79.8% ⇒ 目標 90%以上

※現状は、帯広市が実施した食育に関するアンケート(平成18年度)の調査結果

#### 農業についての体験や、知ることのできる 機会があることの満足度

現状 36.0% ⇒ 目標 70%以上

※現況は、市民意向調査(平成18年度)結果



《取り組みの事例》



【帯広市農業技術センターの展示ほ】

帯広市農業技術センターでは、空中かぼちゃや地中での様子を観察できる長いもなどを展示ほで栽培しています。子どもたちは驚きながら作物の生育の不思議さを学び、農業に対する理解を深めています。

酪農教育ファームの数

現状 2戸 ⇒ 目標 5戸以上

※現況は、農政部調べ（平成18年度）

北海道の計画では、

ふれあいファーム登録数      16年度      21年度  
891農場 ⇒ 1,200農場

《取り組みの事例》



【酪農体験学習】

市内の小・中学生が酪農教育ファームに登録されている農場へ行き、牛に関する講義や寝わたりの交換、餌やり、水・ミルクやり、搾乳、アイスクリームづくりなどさまざまな体験を通して命の大切さ、感謝の心を学んでいます。

## (5) 学校給食における地場産野菜の使用量の増加

学校給食に地場産の農畜産物を使用し、食に関する指導の「生きた教材」として活用することは、子どもが地域の農業への理解を深めるとともに、地産地消の推進に有効です。

また、地元の食材を食べたいと思う児童生徒の割合を増やすためにも、学校給食における安全で安心な地場産野菜の使用量の増加を目指します。

北海道の計画では、

▼学校給食における道産農林水産物の活用

道産食材の購入率(金額ベース) 13年度 39% ⇒ 21年度 70%

### 学校給食における地場産野菜の導入率

現状 62% ⇒ 目標 70%以上

※現状は、平成17年度実績

北海道の計画では、

▼学校給食における道産農林水産物の活用)

学校給食に道産小麦パンを利用している市町村数 16年度 74市町村 ⇒ 21年度 全市町村

※帯広市の学校給食パンは、平成18年度から十勝産小麦100%で作られています。

## (6) 家庭での地場農産物の利用促進

地産地消は、消費者の食に対する安全・安心志向の高まりの中、生産者と消費者の信頼関係を築くための重要な取り組みです。

生産者と直接話をしながら新鮮な農産物を買うことができる直売施設や朝市などは、農業への理解を深めるとともに地場産農産物への愛着心を育て、地産地消の核となるものです。

家庭での地場産農産物の利用を促進するために、消費者と生産者が直接顔を合わせて農産物を購入できる機会の増加を目指します。

### 地元の農畜産物が地元で容易に購入できることの満足度

現状 59.3% ⇒ 目標 75%以上

※現況は、市民意向調査(平成18年度)

## IV 食育推進のための施策展開

食育は、食べ物を生産する農業をはじめ、栄養や健康、幼少期の教育過程や大人の食に対する意識、食事マナーや食文化など、対象が広く、家庭や学校、地域など、様々な場面で取り組みを進めてきました。

帯広市食育推進計画では、家庭、学校、地域などの生活シーンごとに関係者が連携しながら取り組みを進めます。

### 1. 家庭における食育の推進

家庭は、最も大切な食育の場です。

家族が囲む食卓は、食事のマナーや食文化、栄養に関する事など、食に関する様々な知識を学ぶ場であるとともに、家族の健康状態を知る場でもあります。

また、食卓での家族とのコミュニケーションは、子どもが豊かな人間性を育むための重要な役割を担っています。

このように、食育の基本となる家庭においての食育を充実させる取り組みを進めます。

#### (1) 食育に関する情報提供

市民が家庭において食育を主体的に取り組めるように、食育講座などの行事を開催したり、献立内容や使用食材をお知らせする給食だよりなどを利用し、学校、保育所等を通じて食育情報をわかりやすく提供するなどして、健全な食習慣を身につけるための家庭の役割についての啓発に努めます。

#### 《取り組みの事例》



#### 【食の講習会】

帯広産小麦を使ったピザづくり教室や、旬の野菜を使った料理講習会、食に関する活動をされている講師を招いての講演会などさまざまな講座を行い、地産地消を進めています

## (2) 家族で食を楽しむ機会の提供

親子で参加できる料理教室や食事会を開催し、親子と一緒に料理や食事をする楽しさを感じるにより、家族がそろって楽しい食卓を囲むことを促進します。

また、父親の食育に対する関心を高めるため、父親を対象とした料理教室も開催します。

### 《取り組みの事例》



#### 【親子で昼食会】

とち大平原交流センターに併設の古い農家住宅（旧川原邸：昭和8年建築）で、農家のお母さんたちが地場産農産物で作ったお昼ごはんを家族と一緒に食べながら、生産者と消費者の交流を図っています。

## (3) 妊産婦や乳幼児を対象とした栄養指導

妊婦の栄養摂取や健康状態は、胎児の発育・発達に影響を与えます。子どもの生涯にわたる健康の基盤づくりのため、妊婦とその家族を対象に、調理しながら妊娠中の栄養について学習する機会を設けます。

また、心身の発達・成長の著しい乳幼児がバランスの取れた食生活を身につけるため、母親とその家族を対象とした離乳食教室を開催するほか、乳幼児健診時において、離乳食や幼児の食事について個別に相談に応じ、食に関する情報を提供します。

### 《取り組みの事例》



#### 【乳幼児健診時の栄養相談】

栄養バランスの取れた食生活を送ることが大切な乳幼児を持つ家族を対象に、毎日の食事作りへのアドバイスなど、離乳食や幼児の食事についての栄養相談を行っています。



#### (4) 成人を対象とした食生活改善の推進

偏食や欠食などバランスのとれない食生活は、生活習慣病に深くかかわっています。したがって健康診断等により自分の健康状態を知り、食生活や運動等の改善を図ることが大切です。

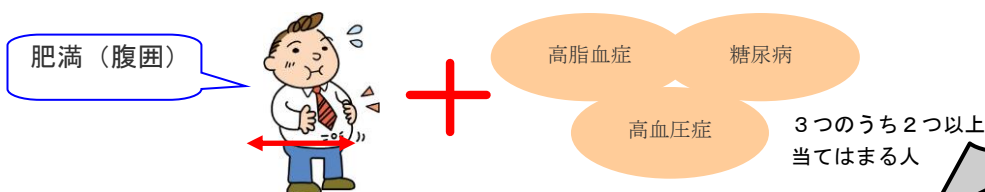
そのためには、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した生活習慣改善指導の提供や、栄養・運動を含む健康相談、出前講座などを通じ、健康づくりを推進します。

##### ○メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）ってなに？

メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）とは、肥満のある方が軽症でも高脂血症、高血圧、糖尿病のうちいずれか2つ以上を合わせもった状態のことで、動脈硬化が進行し、心臓病や脳卒中などの病気を起こしやすいといわれています。しかも、「血糖値がちょっと高め」「血圧がちょっと高め」といった、まだ病気とは診断されない予備軍でも、併発することで、動脈硬化が急速に進行します。

動脈硬化は、程度が進まないかぎり、なかなか症状として出にくい病気です。そのため、放っておくと病気が進行してしまいますので、年1回の健康診査を受けることがとても重要です。

※肥満とは、腹囲が男性85cm以上、女性90cm以上または体格指数（BMI）が25以上のことをいいます。  $BMI = \text{体重 (kg)} \div \text{身長 (m)} \div \text{身長 (m)}$



#### (5) 家族で農業とふれあう機会の提供

家庭において農業への理解や食への感謝の気持ちを深めていくことを推進するため、播種から収穫までの一連の農業体験と生産者との交流を親子で経験できる機会を提供します。

##### 《取り組みの事例》



【帯広っ子農業体験学校】



帯広っ子農業体験学校では、作物の種まきから収穫まで農作業を行ない、取れた農作物を農家のお母さんと一緒に料理し、食べることで、農作業の苦労や喜び、食べ物の大切さを学んでいます

## 2. 保育所等における食育の推進

乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期であり、子どもの成長に応じた食育が必要です。

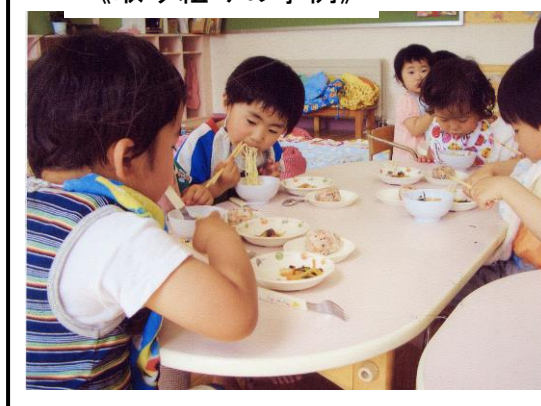
乳幼児が、その生活時間の大半を過ごす場である保育所では、家庭と連携しながら、食に関する様々な体験や指導に取り組み、望ましい食習慣と豊かな人間性の育成を図ります。

### (1) 保育所給食を活用した食育の推進

地元で取れた野菜を保育所給食に積極的に活用し、子どもに地域の食材を知ってもらうとともに、献立に行事食を取り入れて、食文化の継承に努めます。

また、保護者と子どもと一緒に給食を体験できる場を提供し、楽しく食べる習慣を身につけるように努めます。

#### 《取り組みの事例》



#### 【地場産農産物を利用した給食】

市内保育所では、地場産小麦を使ったラーメンや地元で採れた野菜などをふんだんに使った給食を子どもたちに提供しています。

### (2) 食育体験活動

収穫体験や料理体験などを通じ、子どもが食べ物に触れることにより、食への関心を高め、食べ物を大切にする心を育てる取り組みを進めます。

### (3) 保護者への啓発

給食だよりや給食試食会、懇談会などを通じて、子どもに対する食育にかかる情報を提供し、家庭内での食育の推進を図ります。

### 3. 学校における食育の推進

学齢期は、心身の発育・発達とともに、体力・運動能力が急速に高まり、個性が確立され、食習慣が形成される大切な時期です。また、一生のうち最も学びに適した時期でもあります。

子どもの健全な育成に重要な役割を担う学校では、食に関する指導の全体計画を策定し、望ましい食習慣を身につけるための取り組みを進めます。

#### (1) 望ましい食習慣を身につけるための環境づくり

児童・生徒向けのリーフレットを作成し、食に対する関心や理解を深めるとともに、学校だよりなどを利用した保護者への啓発を行います。

また、学校での食育の中心的役割を果たす教職員の研修会を実施し、食に関する指導体制を充実します。

#### (2) 食に関する学習内容の充実

家庭科や総合的な学習の時間などにおいて、調理実習や農業体験など体験を重視した教育活動を推進し、児童・生徒が栄養バランスや食の生産に対する関心や理解を深めるよう努めます。

また、保健体育における生活習慣病予防のための指導や特別活動における健康で安全な生活態度と望ましい食習慣の形成に関する指導を推進します。

#### 《取り組みの事例》



#### 【学童農園】

帯広の森サラダ館の学童農園では、保育所の園児や小学生が馬鈴しょ、スイートコーン、かぼちゃなどの種まき、収穫体験を行っています。

### (3) 学校給食を活用した食育の推進

学校給食は、共に食することによってふれあいの場をつくり、好ましい人間関係を図るなどの教育活動のほか、社会生活に必要なことを、自らが体験・体得できる「生きた教材」としての重要な役割を担っています。児童生徒に対する学校給食の役割も大きく、食の安全安心や地産地消などの動きとも連動した幅の広い食育を推進します。

### (4) ふるさと給食などの実施

学校給食に地場産の食材を積極的に活用し、地産地消を推進するとともに、地場産農畜産物への理解と郷土を大切にすることを育むための「ふるさと給食」や姉妹都市の特産物を利用し、帯広市との違いなどを学ぶ「姉妹都市交流給食」などを実施しながら、児童・生徒が地域の農畜産物への関心を高め、農業への理解を深めるよう努めます。

#### 《取り組みの事例》



#### 【ふるさと給食週間】

毎年 11 月の第 3 週に実施しています。

地場の農畜産物を使用した特別献立の給食により、地場産品への理解や郷土を大切にすることを育みます。

また献立に使われた地場農畜産物に関する資料を作成し、学校や家庭に配布しています。

### (5) 学校栄養職員などによる専門的指導

学校給食共同調理場の栄養士は、学校栄養職員として配置されています。学校給食に関する基本的計画の参画や栄養管理・衛生管理など専門性を発揮した取り組みを進めます。

また、給食時間の学校訪問やバイキング給食の実施等により、給食の正しい食べ方や健康と食事に関し専門的な指導を行います。

学校での食に関する指導充実のため、学校栄養職員が授業を行なえるよう、栄養教諭資格が設けられました。今後、地域の状況や給食調理場の実態を踏まえつつ、任用についての検討を進めます。



## 《取り組みの事例》



### 【栄養士の派遣指導授業】

市内の小学校5・6年生を対象に、学校給食共同調理場の栄養士が、病気を予防する食生活や栄養についての授業を行っています。

## 4. 地域における食育の推進

地域は、子どもから高齢者まで、様々な世代の人が生活を営む場であり、ライフステージに応じた食生活や豊かな食文化が見られます。

健康づくりや食への関心を高め、家庭や保育所、学校などと連携しながら、食育が地域に定着するための取り組みを進めます。

### (1) 市民への食育啓発

広く市民に食育を普及するため、広報誌への掲載や図書館の食に関する蔵書の充実による情報提供を行うとともに、食育をテーマとしたイベントを開催します。

また、食育講座や料理教室などを実施し、市民に食に関する学習機会を提供します。

## 《取り組みの事例》



発行：毎月1日（2006年11月創刊）。  
図書館内で無料配布。市内小中学校・  
保育所・コミセンなどにも用意。  
帯広市図書館のホームページに掲載。

### 【『食☆ナビ』の発行】

帯広市図書館では、農・畜産業、食物史、アレルギー、料理、栄養、食べものに関する小説やエッセイなど、様々な食文化に関する資料を収集しています。

食文化の資料が充実することによって、市民一人ひとりが食についての知識や理解を深め、心身ともに健康で豊かな生活を送るための「生きた情報」をすぐに手に入れることができる。そんな図書館を目指して、収集した食に関する資料を、毎月発行の『食☆ナビ』という広報誌でご紹介しています。

## (2) 地域における健康づくり活動の推進

地域において食生活の改善や、健康づくりを推進するため、組織的に活動するボランティアを養成するとともに、地域活動の推進を支援します。

また、地域へ出向いて、生活習慣病予防のための出前講座を実施し、食育の取り組みの浸透を図ります。

### 《取り組みの事例》



#### 【男性のための料理講習会】

普段あまり家庭で料理をする機会がなかった男性の方たちにも、積極的に料理をしてもらおうと、男性のための料理教室を開いています。

## 5. 生産者と消費者の交流をとおした食育の推進

食への感謝の気持ちを持つためには、食を生み出す農業への理解が重要です。

帯広は、消費者にとって生産現場が身近で、農業のことを知るには、とても恵まれた環境にあります。

そうした帯広の地域特性を活かし、農業体験活動や地産地消をとおして、生産者と消費者の交流の促進に取り組むことにより、消費者が、農業に対する関心を高めることを図ります。

### (1) 多様な体験活動をとおした農業理解の推進

帯広の森市民農園や帯広市農業技術センター、とかち大平原交流センターを活用し、農業に関する体験や学習の機会を提供します。

また、生産現場を消費者が訪問し、生産者の取り組みを実際に見たり体験したりする機会を設け、生産者と消費者の「顔が見える」関係を築き、交流の促進を図ります。

## 《取り組みの事例》



### 【自給自足体験事業】

とち大平原交流センターの体験ほ場で、春まき小麦や大豆などを種まきし、収穫します。収穫した農産物でパンやみそを作ります。



### 【生産現場バスツアー】

消費者が直接生産現場を訪ねるバスツアーを畑作コースと畜産コースに分けて実施しています。

## (2) 地産地消の推進

生産者と消費者の信頼関係を構築し、安全で安心な地元農畜産物への理解と関心の増進を図るため、地産地消を推進します。

学校給食や保育所給食の食材に、地場産の農畜産物を積極的に活用するほか、地場産の農畜産物を使った加工品の製造への支援を行います。

また、朝市の開催や直売施設の充実などにより、消費者が地場産の農畜産物を購入しやすい環境づくりに努めます。

## 《取り組みの事例》



### 【おびひろ大朝市】

消費者と生産者の交流を図り、地産地消を進めるために9月の敬老の日に帯広競馬場を会場に開催しています。十勝管内の農家さんと大勢の市民の方が訪れました。



### 【帯広市小規模加工研究会】

農家のお母さんたちが、自分のところで収穫した農産物を惣菜やみそ、漬物などに加工、販売し、消費者との交流を図っています。

## 《資 料》

### I データで見る帯広市の食をめぐる現状

～「食育に関するアンケート調査」より（平成19年2月実施）

市内全小・中学校の児童生徒と保護者、計14,863人を対象に実施しました。回収数は10,426件、回収率は70.15%でした。

#### 1. 主なアンケート結果の分析

##### 1) 朝食の欠食

朝食をほとんど食べない児童生徒の割合は概ね2%ですが、週に1、2日食べない日がある子どもを含めると欠食率は10%を超えます。欠食は、クラブ活動や塾などライフスタイルが多様化する高学年になるほど増える傾向にあります。

保護者は、10人にひとりが朝食をほとんど食べておらず、週に1、2日食べない日がある人を含めると4人にひとりに欠食がみられます。

朝食を食べない理由は、「食欲がない」、「時間がない」が主ですが、保護者については、「食べない習慣」という理由も多いのが目を引きます。

また、保護者が欠食している家庭の児童生徒の欠食率が高く、保護者の食習慣が影響していると思われる。

児童生徒の欠食率は、就寝時間や起床時間が遅いほど高く、また、夜食を食べている人が高い傾向です。

また、保健室の利用頻度は、きちんと朝ごはんを食べている子供のほうが、欠食している子どもより低い傾向にあります。

##### 2) 野菜及び牛乳・乳製品の摂取

野菜を1日3回食べる割合は、児童生徒、保護者とも約20%と、概ね同じ割合になっています。ほとんど食べない児童生徒は10%程度で、保護者の約2倍の割合となっています。

牛乳・乳製品を週に5回以上とっている割合は、児童生徒の約70%に対して、保護者は40%に満たなく、保護者の割合が低いことが目立ちます。またほとんどとらない人についても児童生徒の3%程度に対して、保護者は10%を超えており、保護者の摂取量不足がみられます。

朝食にごはんを食べる割合は、児童生徒、保護者ともに約60%ですが、保護者のほうがやや低くなっています。



### 3) 適正体重の認識

自身にあった適正体重を知っている人の割合は、86.1%となっています。低学年の子どもをもつ保護者の割合がやや低くなっています。

### 4) 家族との共食

ほとんどの児童生徒が家族と一緒に夕食を食べていますが、家族全員が揃って食事をする割合は、およそ半分程度となっています。

また、ひとりで夕食をとる子どもの割合は学年が上がるにつれて多くなっています。

### 5) 農業体験

農業体験は、機会に恵まれていることもあり、児童生徒、保護者ともに80%近くの人を経験していますが、体験内容は、じゃがいもなどの収穫体験の占める割合が多くなっています。

### 6) 地場産の食材

給食パンに地場産の小麦を使っていることを知っている割合は、児童生徒で約40%、保護者が約60%でした。

家庭で主に道産米を使っている割合は約57%で、たまに使う家庭を含めると80%近くの家庭で使用しています。

地元産の食材をよく使う家庭は約60%で、たまに使う家庭を含めるとほとんどの家庭で使っています。地元産食材の購入先はスーパーが多く、約70%を占めています。直接生産者とふれあえて、新鮮な農産物を購入できる朝市、直売所を使う家庭の割合は、20%に達していません。

### 7) 生活習慣等

起床時間は、児童生徒のほとんどが午前7時までには起きていますが、中学生では5%近くの子どものみが午前8時ごろまで寝ています。就寝時間は、午後10時以降に寝る子どもが約30%います。中学生では、4人にひとりが12時以降に寝ています。

起床時間、就寝時間ともに学年が進むにつれて遅くなる傾向にあります。

おやつは、ほとんどの児童生徒が毎日、または週のうち何日かは食べています。毎日2回以上食べる子どもが10%近くいます。

寝る前に夜食を食べる児童生徒は、30%近くいます。就寝時間が遅くなる中学生になると、約40%の子どもが夜食を食べています。

## 2. 食育アンケート集計結果

### 1. 「児童生徒の性別」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男	4,397	42.2%	1,072	41.9%	939	39.4%	916	40.2%	1,469	46.3%	1	2.9%
女	4,714	45.2%	1,200	46.9%	1,021	42.8%	987	43.3%	1,501	47.3%	5	14.7%
無回答	1,315	12.6%	285	11.1%	423	17.8%	374	16.4%	205	6.5%	28	82.4%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計－無回答)	9,111		2,272		1,960		1,903		2,970		6	

### 2. 「児童生徒は朝ごはんを食べるか」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
毎日食べる	9,285	89.1%	2,328	91.0%	2,177	91.4%	2,027	89.0%	2,745	86.5%	8	23.5%
週に1, 2日食べない	708	6.8%	172	6.7%	125	5.2%	151	6.6%	259	8.2%	1	2.9%
週に3, 4日食べない	142	1.4%	28	1.1%	27	1.1%	32	1.4%	55	1.7%	0	0.0%
ほとんど食べない	227	2.2%	24	0.9%	40	1.7%	60	2.6%	103	3.2%	0	0.0%
無回答	64	0.6%	5	0.2%	14	0.6%	7	0.3%	13	0.4%	25	73.5%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計－無回答)	10,362		2,552		2,369		2,270		3,162		9	

### 3. 「2. で食べないと回答した人：朝ごはんを食べない理由」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
食欲がない	393	36.5%	99	44.2%	68	35.4%	92	37.9%	134	32.1%	0	0.0%
時間がない	503	46.7%	99	44.2%	105	54.7%	109	44.9%	189	45.3%	1	100.0%
食べない習慣	52	4.8%	2	0.9%	4	2.1%	11	4.5%	35	8.4%	0	0.0%
その他	105	9.7%	20	8.9%	12	6.3%	24	9.9%	49	11.8%	0	0.0%
無回答	24	2.2%	4	1.8%	3	1.6%	7	2.9%	10	2.4%	0	0.0%
合計	1,077	100.0%	224	100.0%	192	100.0%	243	100.0%	417	100.0%	1	100.0%
回答者数(合計－無回答)	1,053		220		189		236		407		1	

### 4. 「児童生徒が野菜を食べる頻度」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
日に3回	2,256	21.6%	543	21.2%	525	22.0%	486	21.3%	699	22.0%	3	8.8%
日に1回	7,113	68.2%	1,780	69.6%	1,629	68.4%	1,570	69.0%	2,129	67.1%	5	14.7%
ほとんど食べない	980	9.4%	226	8.8%	216	9.1%	205	9.0%	332	10.5%	1	2.9%
無回答	77	0.7%	8	0.3%	13	0.5%	16	0.7%	15	0.5%	25	73.5%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計－無回答)	10,349		2,549		2,370		2,261		3,160		9	

### 5. 「児童生徒が乳製品を摂る頻度」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
週に5回以上	7,080	67.9%	1,717	67.1%	1,630	68.4%	1,584	69.6%	2,146	67.6%	3	8.8%
週に3, 4回	1,972	18.9%	534	20.9%	461	19.3%	405	17.8%	569	17.9%	3	8.8%
週に1, 2回	1,009	9.7%	244	9.5%	208	8.7%	228	10.0%	327	10.3%	2	5.9%
ほとんど摂らない	306	2.9%	55	2.2%	77	3.2%	50	2.2%	124	3.9%	0	0.0%
無回答	59	0.6%	7	0.3%	7	0.3%	10	0.4%	9	0.3%	26	76.5%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計－無回答)	10,367		2,550		2,376		2,267		3,166		8	

## 6. 「児童生徒が農業体験をしたことがあるか」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ある	8,256	79.2%	2,014	78.8%	2,007	84.2%	1,853	81.4%	2,375	74.8%	7	20.6%
ない	2,124	20.4%	539	21.1%	371	15.6%	419	18.4%	793	25.0%	2	5.9%
無回答	46	0.4%	4	0.2%	5	0.2%	5	0.2%	7	0.2%	25	73.5%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計－無回答)	10,380		2,553		2,378		2,272		3,168		9	

## 7. 「6. 農業体験したことある人：農業体験内容（3つまで複数回答可）」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
じゃがいも収穫	7,559	63.2%	1,857	65.3%	1,873	63.0%	1,712	63.8%	2,110	61.0%	7	87.5%
牛の乳搾り	1,738	14.5%	261	9.2%	456	15.3%	377	14.0%	643	18.6%	1	12.5%
その他	2,403	20.1%	686	24.1%	601	20.2%	562	20.9%	554	16.0%	0	0.0%
無回答	267	2.2%	41	1.4%	42	1.4%	34	1.3%	150	4.3%	0	0.0%
合計	11,967	100.0%	2,845	100.0%	2,972	100.0%	2,685	100.0%	3,457	100.0%	8	100.0%
回答者数(合計－無回答)	11,700		2,804		2,930		2,651		3,307		8	

## 8. 「児童生徒は夕食を誰と食べるか」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
家族全員	5,062	48.6%	1,294	50.6%	1,225	51.4%	1,192	52.3%	1,347	42.4%	4	11.8%
家族のだけかと	5,112	49.0%	1,237	48.4%	1,124	47.2%	1,046	45.9%	1,700	53.5%	5	14.7%
家族以外のだけかと	46	0.4%	19	0.7%	7	0.3%	8	0.4%	12	0.4%	0	0.0%
一人が多い	139	1.3%	1	0.0%	13	0.5%	23	1.0%	102	3.2%	0	0.0%
無回答	67	0.6%	6	0.2%	14	0.6%	8	0.4%	14	0.4%	25	73.5%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計－無回答)	10,359		2,551		2,369		2,269		3,161		9	

## 9. 「児童生徒の朝ごはんの主食は」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ごはん	6,623	63.5%	1,600	62.6%	1,512	63.4%	1,439	63.2%	2,064	65.0%	8	23.5%
パン	3,027	29.0%	756	29.6%	713	29.9%	670	29.4%	888	28.0%	0	0.0%
どちらでもない	713	6.8%	193	7.5%	145	6.1%	162	7.1%	213	6.7%	0	0.0%
無回答	63	0.6%	8	0.3%	13	0.5%	6	0.3%	10	0.3%	26	76.5%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計－無回答)	10,363		2,549		2,370		2,271		3,165		8	

## 10. 「児童生徒は給食パンが地元産小麦と知っているか」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	4,065	39.0%	597	23.3%	898	37.7%	1,053	46.2%	1,513	47.7%	4	11.8%
知らない	6,211	59.6%	1,925	75.3%	1,467	61.6%	1,197	52.6%	1,617	50.9%	5	14.7%
無回答	150	1.4%	35	1.4%	18	0.8%	27	1.2%	45	1.4%	25	73.5%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計－無回答)	10,276		2,522		2,365		2,250		3,130		9	

## 11. 「児童生徒はおやつを食べるか」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
毎日2回以上	969	9.3%	217	8.5%	189	7.9%	240	10.5%	322	10.1%	1	2.9%
毎日1回	5,820	55.8%	1,562	61.1%	1,418	59.5%	1,255	55.1%	1,580	49.8%	5	14.7%
週に4, 5日	1,625	15.6%	351	13.7%	368	15.4%	401	17.6%	505	15.9%	0	0.0%
週に2, 3日	1,489	14.3%	343	13.4%	320	13.4%	277	12.2%	548	17.3%	1	2.9%
ほとんど食べない	483	4.6%	83	3.2%	87	3.7%	96	4.2%	215	6.8%	2	5.9%
無回答	40	0.4%	1	0.0%	1	0.0%	8	0.4%	5	0.2%	25	73.5%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計－無回答)	10,386		2,556		2,382		2,269		3,170		9	

## 12. 「児童生徒は夜食を食べるか」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
週に5回以上	415	4.0%	86	3.4%	58	2.4%	87	3.8%	184	5.8%	0	0.0%
週に3, 4回	699	6.7%	134	5.2%	119	5.0%	147	6.5%	298	9.4%	1	2.9%
週に1, 2回	1,850	17.7%	332	13.0%	373	15.7%	408	17.9%	735	23.1%	2	5.9%
ほとんど食べない	7,415	71.1%	2,000	78.2%	1,827	76.7%	1,631	71.6%	1,951	61.4%	6	17.6%
無回答	47	0.5%	5	0.2%	6	0.3%	4	0.2%	7	0.2%	25	73.5%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計-無回答)	10,379		2,552		2,377		2,273		3,168		9	

## 13. 「児童生徒の起床時間」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
午前6時より前	151	1.4%	31	1.2%	38	1.6%	32	1.4%	50	1.6%	0	0.0%
午前6時頃	1,918	18.4%	601	23.5%	505	21.2%	418	18.4%	392	12.3%	2	5.9%
午前7時頃	7,899	75.8%	1,862	72.8%	1,778	74.6%	1,743	76.5%	2,509	79.0%	7	20.6%
午前8時頃	236	2.3%	29	1.1%	20	0.8%	30	1.3%	157	4.9%	0	0.0%
無回答	222	2.1%	34	1.3%	42	1.8%	54	2.4%	67	2.1%	25	73.5%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計-無回答)	10,204		2,523		2,341		2,223		3,108		9	

## 14. 「児童生徒の就寝時間」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
午後9時より前	2,064	19.8%	1,128	44.1%	617	25.9%	278	12.2%	37	1.2%	4	11.8%
午後10時頃	4,496	43.1%	1,161	45.4%	1,425	59.8%	1,360	59.7%	545	17.2%	5	14.7%
午後11時頃	2,350	22.5%	79	3.1%	179	7.5%	470	20.6%	1,622	51.1%	0	0.0%
午前12時以降	820	7.9%	13	0.5%	10	0.4%	27	1.2%	770	24.3%	0	0.0%
無回答	696	6.7%	176	6.9%	152	6.4%	142	6.2%	201	6.3%	25	73.5%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計-無回答)	9,730		2,381		2,231		2,135		2,974		9	

## 15. 「児童生徒が保健室を利用する頻度」

選択項目	総計		小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほぼ毎日	119	1.1%	20	0.8%	14	0.6%	31	1.4%	54	1.7%	0	0.0%
週に1, 2回	524	5.0%	94	3.7%	127	5.3%	124	5.4%	179	5.6%	0	0.0%
月に1, 2回	1,914	18.4%	464	18.1%	488	20.5%	447	19.6%	515	16.2%	0	0.0%
ほとんど利用しない	7,347	70.5%	1,873	73.2%	1,652	69.3%	1,566	68.8%	2,247	70.8%	9	26.5%
無回答	522	5.0%	106	4.1%	102	4.3%	109	4.8%	180	5.7%	25	73.5%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計-無回答)	9,904		2,451		2,281		2,168		2,995		9	

## 16. 「保護者は朝ごはんを食べるか」

選択項目	総計		小学1, 2年の保護者		小学3, 4年の保護者		小学5, 6年の保護者		中学の保護者		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
毎日食べる	7,616	73.0%	1,843	72.1%	1,752	73.5%	1,662	73.0%	2,351	74.0%	8	23.5%
週に1, 2日食べない	1,182	11.3%	320	12.5%	257	10.8%	249	10.9%	356	11.2%	0	0.0%
週に3, 4日食べない	392	3.8%	103	4.0%	95	4.0%	85	3.7%	108	3.4%	1	2.9%
ほとんど食べない	1,157	11.1%	276	10.8%	265	11.1%	269	11.8%	346	10.9%	1	2.9%
無回答	79	0.8%	15	0.6%	14	0.6%	12	0.5%	14	0.4%	24	70.6%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計-無回答)	10,347		2,542		2,369		2,265		3,161		10	



### 17. 「16. で食べないと回答した人：朝ごはんを食べない理由」

選択項目	総計		小学1, 2年の保護者		小学3, 4年の保護者		小学5, 6年の保護者		中学の保護者		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
食欲がない	832	30.5%	215	30.8%	177	28.7%	206	34.2%	234	28.9%	0	0.0%
時間がない	1,016	37.2%	273	39.1%	237	38.4%	199	33.0%	307	37.9%	0	0.0%
食べない習慣	666	24.4%	164	23.5%	163	26.4%	142	23.5%	195	24.1%	2	100.0%
その他	158	5.8%	37	5.3%	32	5.2%	44	7.3%	45	5.6%	0	0.0%
無回答	59	2.2%	10	1.4%	8	1.3%	12	2.0%	29	3.6%	0	0.0%
合計	2,731	100.0%	699	100.0%	617	100.0%	603	100.0%	810	100.0%	2	100.0%
回答者数(合計-無回答)	2,672		689		609		591		781		2	

### 18. 「保護者が野菜を食べる頻度」

選択項目	総計		小学1, 2年の保護者		小学3, 4年の保護者		小学5, 6年の保護者		中学の保護者		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
日に3回	2,299	22.1%	530	20.7%	498	20.9%	508	22.3%	760	23.9%	3	8.8%
日に1回	7,532	72.2%	1,887	73.8%	1,755	73.6%	1,647	72.3%	2,236	70.4%	7	20.6%
ほとんど食べない	509	4.9%	127	5.0%	113	4.7%	107	4.7%	162	5.1%	0	0.0%
無回答	86	0.8%	13	0.5%	17	0.7%	15	0.7%	17	0.5%	24	70.6%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計-無回答)	10,340		2,544		2,366		2,262		3,158		10	

### 19. 「保護者が乳製品を摂る頻度」

選択項目	総計		小学1, 2年の保護者		小学3, 4年の保護者		小学5, 6年の保護者		中学の保護者		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
週に5回以上	4,121	39.5%	1,010	39.5%	936	39.3%	912	40.1%	1,261	39.7%	2	5.9%
週に3, 4回	2,496	23.9%	630	24.6%	581	24.4%	567	24.9%	714	22.5%	4	11.8%
週に1, 2回	2,496	23.9%	608	23.8%	560	23.5%	522	22.9%	802	25.3%	4	11.8%
ほとんど摂らない	1,253	12.0%	299	11.7%	295	12.4%	270	11.9%	389	12.3%	0	0.0%
無回答	60	0.6%	10	0.4%	11	0.5%	6	0.3%	9	0.3%	24	70.6%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計-無回答)	10,366		2,547		2,372		2,271		3,166		10	

### 20. 「保護者が農業体験をしたことがあるか」

選択項目	総計		小学1, 2年の保護者		小学3, 4年の保護者		小学5, 6年の保護者		中学の保護者		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ある	8,321	79.8%	2,064	80.7%	1,950	81.8%	1,822	80.0%	2,478	78.0%	7	20.6%
ない	2,029	19.5%	480	18.8%	421	17.7%	441	19.4%	684	21.5%	3	8.8%
無回答	76	0.7%	13	0.5%	12	0.5%	14	0.6%	13	0.4%	24	70.6%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計-無回答)	10,350		2,544		2,371		2,263		3,162		10	

### 21. 「保護者は自分の適正体重を知っているか」

選択項目	総計		小学1, 2年の保護者		小学3, 4年の保護者		小学5, 6年の保護者		中学の保護者		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	8,976	86.1%	2,146	83.9%	2,053	86.2%	2,004	88.0%	2,763	87.0%	10	29.4%
知らない	1,374	13.2%	400	15.6%	322	13.5%	262	11.5%	390	12.3%	0	0.0%
無回答	76	0.7%	11	0.4%	8	0.3%	11	0.5%	22	0.7%	24	70.6%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計-無回答)	10,350		2,546		2,375		2,266		3,153		10	

### 22. 「保護者の朝ごはんの主食は」

選択項目	総計		小学1, 2年の保護者		小学3, 4年の保護者		小学5, 6年の保護者		中学の保護者		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ごはん	6,343	60.8%	1,545	60.4%	1,441	60.5%	1,390	61.0%	1,960	61.7%	7	20.6%
パン	2,682	25.7%	675	26.4%	646	27.1%	575	25.3%	785	24.7%	1	2.9%
どちらでもない	1,273	12.2%	315	12.3%	271	11.4%	286	12.6%	400	12.6%	1	2.9%
無回答	128	1.2%	22	0.9%	25	1.0%	26	1.1%	30	0.9%	25	73.5%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計-無回答)	10,298		2,535		2,358		2,251		3,145		9	

### 23. 「保護者の家庭での米は道産米か」

選択項目	総計		小学1, 2年の保護者		小学3, 4年の保護者		小学5, 6年の保護者		中学の保護者		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
道産米が多い	5,891	56.5%	1,466	57.3%	1,355	56.9%	1,265	55.6%	1,800	56.7%	5	14.7%
たまに使う	2,286	21.9%	555	21.7%	505	21.2%	525	23.1%	699	22.0%	2	5.9%
ほとんど使わない	2,169	20.8%	520	20.3%	507	21.3%	473	20.8%	666	21.0%	3	8.8%
無回答	80	0.8%	16	0.6%	16	0.7%	14	0.6%	10	0.3%	24	70.6%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計-無回答)	10,346		2,541		2,367		2,263		3,165		10	

### 24. 「保護者は給食パンが地元産小麦と知っているか」

選択項目	総計		小学1, 2年の保護者		小学3, 4年の保護者		小学5, 6年の保護者		中学の保護者		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	6,242	59.9%	1,595	62.4%	1,435	60.2%	1,384	60.8%	1,824	57.4%	4	11.8%
知らない	4,112	39.4%	948	37.1%	941	39.5%	877	38.5%	1,340	42.2%	6	17.6%
無回答	72	0.7%	14	0.5%	7	0.3%	16	0.7%	11	0.3%	24	70.6%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計-無回答)	10,354		2,543		2,376		2,261		3,164		10	

### 25. 「保護者は地元産食材を使うか」

選択項目	総計		小学1, 2年の保護者		小学3, 4年の保護者		小学5, 6年の保護者		中学の保護者		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
よく使う	6,269	60.1%	1,518	59.4%	1,429	60.0%	1,374	60.3%	1,944	61.2%	4	11.8%
たまに使う	3,840	36.8%	954	37.3%	884	37.1%	848	37.2%	1,148	36.2%	6	17.6%
ほとんど使わない	258	2.5%	70	2.7%	62	2.6%	48	2.1%	78	2.5%	0	0.0%
無回答	59	0.6%	15	0.6%	8	0.3%	7	0.3%	5	0.2%	24	70.6%
合計	10,426	100.0%	2,557	100.0%	2,383	100.0%	2,277	100.0%	3,175	100.0%	34	100.0%
回答者数(合計-無回答)	10,367		2,542		2,375		2,270		3,170		10	

### 26. 「25. で使うと回答した人：地元産食材の購入先（5つまで複数回答可）」

選択項目	総計		小学1, 2年の保護者		小学3, 4年の保護者		小学5, 6年の保護者		中学の保護者		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
スーパー	9,330	69.6%	2,273	68.9%	2,150	70.6%	2,054	69.6%	2,844	69.4%	9	60.0%
朝市	408	3.0%	104	3.2%	97	3.2%	81	2.7%	125	3.0%	1	6.7%
直売所	2,078	15.5%	501	15.2%	456	15.0%	480	16.3%	637	15.5%	4	26.7%
通販	283	2.1%	81	2.5%	55	1.8%	70	2.4%	76	1.9%	1	6.7%
その他	1,164	8.7%	308	9.3%	257	8.4%	247	8.4%	352	8.6%	0	0.0%
無回答	149	1.1%	31	0.9%	32	1.1%	20	0.7%	66	1.6%	0	0.0%
合計	13,412	100.0%	3,298	100.0%	3,047	100.0%	2,952	100.0%	4,100	100.0%	15	100.0%
回答者数(合計-無回答)	13,263		3,267		3,015		2,932		4,034		15	